

【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】(小学校用)

都道府県名 埼玉県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	小鹿野町立小鹿野小学校								
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	3	2	2	15	22
児童数	75	66	67	75	80	80	5	448	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力向上のための指導方法の改善  
 ~算数科における習熟の程度に応じた効果的な指導の実現をめざして

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

少人数指導(習熟の程度に応じた指導)

【課題選択指導・少人数指導(人数均等・習熟度別)・TT指導】

2~6年生・算数(子どもの理解度に差が生じやすい教科である。)

(系統的な教科なので各学年において基礎の定着が必要である)

専科指導

6年生・書写(教師の専門性を生かし、児童の力を伸ばすため)

4年生・社会・理科(4年生担任の専門性を生かし、児童の力を伸ばすため)

3年生・音楽(教師の専門性を生かし、児童の力を伸ばすため)

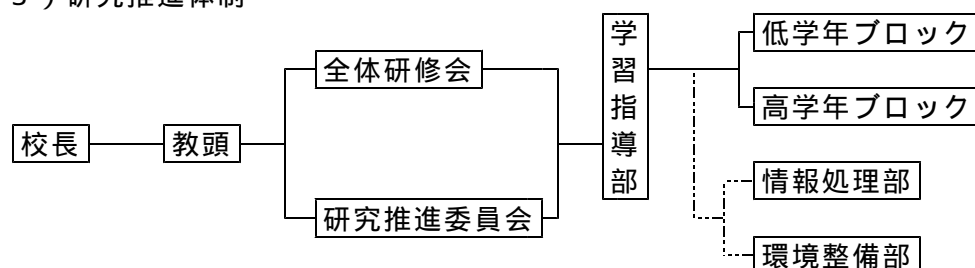
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ
	確かな学力向上のための指導方法の改善 ~算数科における効果的な少人数指導の実施をめざして~ 仮説 1. TT、少人数指導の効果的な組み合わせ(学習内容に応じた)を実施していくことにより、児童一人一人の学力を向上させ、個々の能力に応じた学習欲求を満たすことができるであろう。 2. 児童一人一人の学力を伸ばすこと、個々の学習欲求を満たすことにより、お互いの児童が認め合い、互いに高めあおうとする学習への意識、雰囲気醸成することができるであろう。 研究内容・方法 ・各学年が授業実践を行うために、各学期の学習内容から研究単元を決定し(算数の領域のうちがうものを選ぶ)、授業構想、授業計画、評価計画、教材開発を行う。 ・各学年の研究した授業を検証し、効果的な指導、改善策を話し合う。 ・学期ごとに基礎的な計算テストを実施し、児童個々の学力および意欲の向上を図るとともに児童の学力を客観的に把握し、指導に生かす。 ・授業実践、研究の記録を保管し、次年度に生かす。 ・学校便り、学年便り、算数学習のシラバスを作成し、指導方法、学習形態についての保護者の理解と協力を得る。 ・各学期ごとに児童・保護者のアンケートを実施し、次の指導に生かす。

平成 15 年 度	<p>テーマ 確かな学力向上のための指導方法の改善 ～算数科における習熟の程度に応じた効果的な指導の実現をめざして～ 仮説</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 習熟の程度に応じた指導形態を積極的に取り入れることにより、児童一人一人の学力を向上させ、個々の能力に応じた学習欲求を満たすことができるであろう。</li> <li>2. 児童一人一人の学力を伸ばすこと、個々の学習欲求を満たすことにより、お互いの児童が認め合い、互いに高め合おうとする学習への意識、雰囲気醸成することができるであろう。</li> </ol> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・14年度の研究成果を元に、より効果的な指導方法を研究する。 研究に際しては、各学年の各単元を単位として授業構想、授業計画、評価計画、教材開発を行う。</li> <li>・算数に関する教室内の掲示物、学習を効果的に進める掲示物を工夫し、学習効率を高めていく研究をする。</li> <li>・学習内容の定着を図るため、朝自習の活用の仕方、家庭での学習の習慣化を推進する方法を研究する。</li> <li>・年間1回の学力テスト、学期ごとの基礎的な計算テストを実施し、児童個々の学力および意欲の向上を図るとともに児童の学力を客観的に把握し、指導に生かす。</li> <li>・学校だより、学年だより、フロンティアスクールだより、算数学習のシラバスを作成し、指導方法、学習形態についての保護者の理解と協力を得る。</li> <li>・各学期ごとに児童・保護者のアンケートを実施し、次の指導に生かす。</li> </ul>
--------------------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 確かな学力向上のための指導方法の改善 ～算数科における習熟の程度に応じた効果的な指導の実現をめざして～ 仮説</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 習熟の程度に応じた指導形態を積極的に取り入れることにより、児童一人一人の学力を向上させ、個々の能力に応じた学習欲求を満たすことができるであろう。</li> <li>2. 児童一人一人の学力を伸ばすこと、個々の学習欲求を満たすことにより、お互いの児童が認め合い、互いに高め合おうとする学習への意識、雰囲気醸成することができるであろう。</li> </ol> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・15年度の研究成果を元に、より効果的な指導方法を研究する。 研究に際しては、各学年の各単元を単位とした授業構想、授業計画、評価計画、教材開発について、今までの授業実践に基づき、改善を図る。</li> <li>・算数に関する教室内の掲示物、学習を効果的に進める掲示物を工夫し、学習効率を高めていく研究を進める。</li> <li>・学習内容の定着を図るため、朝自習の活用の仕方、家庭での学習の習慣化を推進する方法の充実を図る。</li> <li>・年間1回の学力テスト、学期ごとの基礎的な計算テストを実施し、児童個々の学力および意欲の向上を図るとともに児童の学力を客観的に把握し、指導に生かす。</li> <li>・学校だより、学年だより、フロンティアスクールだより、算数学習のシラバスを作成し、指導方法、学習形態についての保護者の理解と協力を得る。</li> <li>・各学期ごとに児童・保護者のアンケートを実施し、次の指導に生かす。</li> </ul>
--------------------	---

### (3) 研究推進体制



\* 点線は平成 15 年度より

#### 研究推進委員会構成メンバー

校長、教頭、教務主任、副教務主任、低学年ブロック代表 2 名、高学年ブロック代表 1 名

#### 平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

##### 1. 研究の成果

- ・ 児童個々の習熟の程度に応じた教具や教材の提示、指導方法の工夫ができた。
- ・ ブロック研修の話し合いで、学年相互の系統性や指導の重点が明確にでき、指導に生かすことができた。
- ・ 児童が自分にあったコースを選択できるようになってきた。
- ・ コース別少人数指導を取り入れたことで、児童がねばり強く学習に取り組み、学習意欲に向上が見られた。
- ・ 研究を中心とした計算テストでの合格者が多かった。
- ・ 学級だけでなく学年を分けてのコース学習では、児童の交流が図れ、新鮮であった。
- ・ 研究授業を通して評価について検討し、実践を図る事ができた。  
(振り返りカード、観点別評価規準について)
- ・ ノートの使い方(学習日、学習のめあての記入、見やすくていねいなノート作り、定規の使用)が徐々に定着しつつある。
- ・ 単元ごとに指導者が替わることは、児童の学習に対する意識の面で効果的であった。
- ・ 学習内容を定着させるための工夫(学習振り返りプリント、レベルプリント)が図れた。児童は意欲的に取り組むことができた。  
(学習内容の復習と学習する機会づくりができた。)

##### 2. 今後の課題

- ・ コース別学習における問題の質と量については検討していきたい。
- ・ 低学年の児童でも取り組める自己評価・振り返りカードの使い方を検討していきたい。
- ・ 習熟の程度に応じた指導を行う時、どうしても指導時間が多くなる傾向がある。年間指導計画を指導と照らし合わせて改善を図っていく必要がある。
- ・ 児童の希望するコースに入れない場合がある。コース選択についての指導も引き続き行っていきたい。
- ・ いくつかのコースに分けて指導をしていくかについては、指導体制、学習内容と照らし合わせて考えていく必要がある。(いつも 2 コースと固定する必要もない。)
- ・ さらに、学力の向上に向けて、教材研究、授業の準備を行っていきたい。
- ・ 学力の向上を図るための表現力(発表の声の大きさ、姿勢、はっきりした発音)などの指導も今後重点をおいていきたい。また、読み書きの力、聞き取る力、作業の段取りの力、集中力、ねばり強さ、ていねいさも必要となってくる。これらについても、家庭との連携・協力を図りながら進めていきたい。

- ・ 学力把握のための学校の取り組みについて
  - ・ 学年はじめの学力テスト
  - ・ 每学期末の全校計算テスト
  - ・ 単元開始時のレディネステスト、単元末の確かめのテスト
- ・ フロンティアスクールとしての成果の普及について
  - ・ 指導方法の改善に関わる地区研究協議会 平成15年11月25日
  - ・ 秩父地区学力向上推進協議会刊行 学力向上リーフレットへの寄稿
  - ・ 秩父地区学力向上推進協議会刊行 指導実践事例集への寄稿
  - ・ 研究紀要作成と秩父管内の全小・中学校への配布
  - ・ H P ( <http://www.chichibu.ne.jp/~oganos/> ) での指導実践の紹介

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                              |                   |              |          |
|----------------------|------------------------------|-------------------|--------------|----------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校                   | ↳ 14年度からの新規校      |              |          |
| 【学校規模】               | 6学級以下<br>↳ 13～18学級<br>25学級以上 | 7～12学級<br>19～24学級 |              |          |
| 【指導体制】               | ↳ 少人数指導<br>↳ 一部教科担任制         | ↳ T Tによる指導<br>その他 |              |          |
| 【研究教科】               | 国語<br>生活<br>体育               | 社会<br>音楽<br>その他   | ↳ 算数<br>図画工作 | 理科<br>家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |                              | ↳ 有               | 無            |          |